

「大津京～近江神宮」(滋賀県)

燦歩会、1月例会は恒例の安全祈願。今年は大津市の近江神宮です。

集合場所の大津京駅は、JRの東海道線から湖西線に分岐した一つ目の駅。

乗り継ぎを間違えた若干名の方を待って、予定を30分遅らせて歩き始めました。

数日前から気象情報で、24日は

「10～20年に一度の『大寒波襲来!』と、予報されていました。

あの「八甲田山の悲劇」も、115年前のこの頃なのですから、私たちも、防寒の備えをすると共に、「雪の大津京」が見られるかと楽しみにしていました。



所が、前日にネットのピンポイント天気予報で見ると、この日の大津市の天気は、風は強いものの「晴れ時々曇り」。そして当日、「必ず晴れる」という燦歩会の吉例どおりの快晴になったのです。参加者は25名(男性19名、女性6名)でした。

まず目指したのは「近江大津宮」の遺跡。667年に飛鳥からこの地に移された都は、僅か5年しか続かなかつたため、所在地も永らく不明のままでした。

昭和40年代の発掘調査で、確認

にしこりされた錦織遺跡です。

このあたりを中心に、宮殿が建ち並んでいたと推定されています。



続いて、向かったのは「皇子山古墳」です。

琵琶湖の西岸、住宅街を抜けてしばらく登った小高い丘の頂上でした。(標高162m)

登るにつれ、琵琶湖の眺望が開けます。



左手奥には、白雪を頂いた伊吹山の雄大な姿も見えました。まさに絶景！！

この丘の頂上に墳墓を築き、葬られたのは ??

発掘調査の結果は、年代は4世紀、形は四角形を並べたような「前方後方」墳で、墳丘の前面には石が葺かれていたという事です。

この地に都が移される300年ほども昔でしょうか？

葬られた人は、琵琶湖の絶景を眼下にして永遠の眠りに就き、

人々は、麓から墳墓の威容を仰ぎ見て、

故人の勢威を偲んだ事でしょう。

いま古墳一带は公園になっていて、

私たちも、しばし昔を思い、

眺望を楽しみました。



丘を下り、しばらく北へ進むと、そこはもう近江神宮。

ここで、例年通り燦歩会の1年の安全を祈って、御祓いをしていただきます。

この地に都を置いた天智天皇を祭神として、昭和15年に創建された神社です。

琵琶湖と比叡山に挟まれて、風もきつく日照時間も短く、冬の寒さは一入なのでしょう。

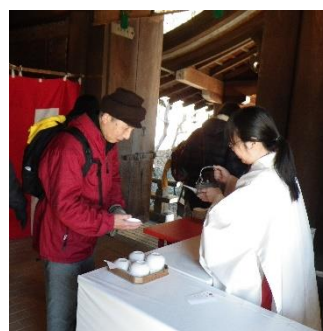
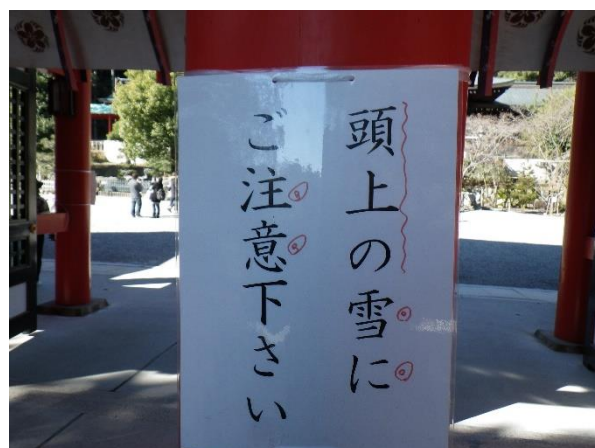
手水屋には可愛らしいツララが出来ていました。まるで竜の息吹が凍ったように見えます。



そして、こんな注意書きも！！！！

決して大袈裟なことではなく、拝殿の前には、

数日前の雪が、固く消え残っていました。



厳かな御祓いの後、お神酒をいただいて、神様と1年の安全の約束をした所です。



天智天皇は、漏刻（水時計）を設け、「時を知らせる」事を始めたと伝えられています。

近江神宮には、それに因んで、時計関連の資料が集められ、これもその一つ、精巧な日時計でした。

寒さの厳しい境内ですが、水仙が咲き始めていました。



* * * * *

燦歩会では、入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。

メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

（切符や食事の予約が必要な例会も時々あります）

多くの方の参加をお待ちしています。

今後の予定 2月 北野天神から御土居を歩く（京都）（「ブラタモリ」も訪れた所）

3月 高安山から信貴山へ（大阪～奈良）

4月以降の予定は、2月中に決定します。

入会大歓迎です。

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（0743-20-4159）

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

（近畿旧友会 おじま 生島）